

補助事業番号：19-1-095

補助事業名：平成19年度 文化財保存に関わる研究者の養成補助事業

補助事業者名：財団法人 中近東文化センター

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

トルコ共和国の中央部に位置するカマン・カレホユック遺跡には、古代オリエント世界の歴史そのものが凝縮されている。この遺跡における発掘調査を通し、世界の共有財産である文化財遺産の発掘調査、修復、保護を実践することにより、世界の考古学、歴史学に寄与するのみならず、グローバルな視点に立った日本の文化行政を考えることのできる研究者を養成し、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

ア. 考古学出土遺物、遺構の保存、修復に関する研究者養成（現地）

平成19年度の考古学出土遺物、遺構保存、修復に関する研究者養成は、第22次カマン・カレホユック発掘調査と平行して行なった。発掘調査は、6月から9月までの3ヶ月間であり、「文化財保存」の研究者養成は、その発掘期間中および10月から11月の建築遺構を保存する作業の2期に分けて行なった。遺跡においては、10mx10mの発掘区を、北区において2個、南区において14個、計16個の発掘調査を実施し、その後、遺物の整理・保存修復等の作業、発掘した遺構の保存作業等に入った。なお、今年度は、現地において植物考古学フィールドコース（オーストラリア国立大学 アンドリュー・フェアバーン博士：7月7日～14日）、動物考古学フィールドコース（アメリカネヴァダ大学 レヴェント・アトゥジュ博士：7月16日～22日）、考古学フィールドコース（第1回：8月5日～18日／第2回：8月19日～9月1日）を開催し、総勢20名の学生が参加した。期間中、学生、若手研究者らは発掘現場で調査を実際に行ないながら、直接専門家の手ほどきを受け「文化財」の取り上げ、保存、修復に関する技術を習得した。また、キャンプ内においても「文化財保存」の専門家は、彼らに対して、修復等に関する基礎的技術の授業を集中的に行なった。作業終了後は、キャンプのミーティングルームで専門家を交えて、各自の報告、討論が行なわれた。

イ. トルコ調査報告会・研究会の開催

平成20年4月19日、20日に開催された2007年度トルコ調査報告会・第18回トルコ調査研究会では、平成19年度に行なった発掘調査、保存修復に関連する研究発表が行なわれた。この報告会・研究会は、広く一般に公開しており、学生、若手研究者、一般から多くの参加者があり、活発な討論が行なわれた（19日：参加者154名/20日：参加者90

名)。初日は、第 22 次カマン・カレホユック発掘調査報告、ベルリン大学から招聘したハルトウムート・キューネ教授の講演、二日目は、前年度発掘調査、本補助事業に参加した若手研究者の研究発表があった。

(3) 成果

ア. 考古学の発掘調査を通して「文化財保存」若手研究者の養成

約 5 ヶ月間に渡って行なわれた本補助事業の現地での活動では、実際に出土した遺物-土器、青銅製品、鉄製品、ガラス製品、土製品、石製品、獣骨、人骨等-、建築遺構の保存、修復等、指導内容は多岐に渡った。特に、発掘現場では緊急な保存処理等が要求される遺物、遺構が出土した場合を常に想定しながら、専門家による指導が行なわれ、参加者はかなり高度の技術を修得した。発掘現場における遺物、遺構の保存に最良の方法は決して一様ではなく、その場で臨機応変に判断し、対処しなければならないことが多いことを考慮し、それに即した指導を行えたことは、参加者の将来にも大きな意味を持つものとする。

イ. トルコ調査報告会・研究会の開催

平成 20 年 4 月 19 日に開催された報告会では、第 22 次カマン・カレホユック発掘調査報告、ベルリン大学から招聘したハルトウムート・キューネ教授の講演、20 日の研究会では、前年度発掘調査、本補助事業に参加した若手研究者の研究発表があった。

特に 19 日のハルトウムート・キューネ教授の講演会では、ドイツ隊によるシリアでの発掘調査の最新情報を知ることができ、現在のヨーロッパをリードする最新の考え方に接することができた貴重な講演会となった。国内の学生、若手研究者はもとより、参加した多くの研究者にとって、海外の研究者と意見を交わすことができたことはたいへん有意義であった。二日目の研究会では、「遺跡保存」「遺物の修復」に関してのカマン・カレホユック発掘調査における最新の研究成果の報告が報告され、それをもとに活発な討論ができたことは、若手の研究者にとっては大きな刺激となったことと思われる。

2. 今後予想される効果

ア. 考古学の発掘調査を通して「文化財保存」若手研究者の養成（現地）

今日まで、発掘調査に関連した「文化財保存」は、あくまでも付随的なものであり、それほど重要視されていなかったと言えよう。また、その専門家を養成するにあたって、多くの場合は現地と切り離された形で行われており、現地で長期間に渡って養成するという事は行なわれてきていない。その点からいっても本補助事業は、「発掘調査」、「文化財保存」が完全に一体化したものであり、今後の日本における「文化財保存」に強く影響を与えるものと考えている。

イ. トルコ調査報告会・研究会の開催

この二つの会は、前年度の成果と今後の課題を公に報告すると同時に、現在、「文化財保存」にとって一体何が問題なのか、それをどのように解決してゆけば良いのか等を討論する場でもある。これらの会に参加する学生、若手研究者と二日間に渡る討論は、カマン・カレホユック発掘調査で「文化財保存」を進める上で一つの指針となっている。

3. 本事業において作成した印刷物

なし

4. 事業内容についての問い合わせ

団 体 名：財団法人 中近東文化センター

(ザイダンホウジン チュウキントウブンカセンター)

住 所：181-0015 東京都三鷹市大沢 3-10-31

代表者名：理事長 阿部 知之（アベ トモユキ）

担当部署：アナトリア考古学研究所

担 当 者：吉田 大輔（ヨシダ ダイスケ）

電話番号：0422-32-7111

F A X：0422-31-9453

E-mail：tr-ex@pa2.so-net.ne.jp

U R L：http://www.meccj.or.jp